

1 年生対象 社会と情報 ティーチングポートフォリオ

大阪府立夕陽丘高等学校 情報科 教諭
長瀬 勇輝

1. 教育の責任

夕陽丘高校では、入学段階から自ら課題を発見し、探究、情報整理、発表することで、社会の情報化、国際化に対応できる力を育成することを目標としており、学習指導要領「社会と情報」の目標にある「効果的にコミュニケーションを行う能力」、「情報社会に積極的に参画する態度」の育成と一致するところである。情報科の教育活動を基盤として、各教科においても「考える授業」「問題解決型学習」に取り組んでいる。

2. 教育者としての理念

私は、自ら課題を設定し、解決に向け、主体的に取り組む力と態度を育成することを理念としている。知識はあらゆるリソースを通じ、生徒自らが構成するという構成主義の知識観に基づき授業をデザインしている。

3. 教育の方法

理念を実現するために、授業導入段階で、ねらいを明確に伝え、疑問や目標を生徒自らが設定し、授

業終了時に何が身に付いたかを振り返るようにしている。

生徒の活動の評価に、ルーブリックとポートフォリオを活用しており、パフォーマンスとともにプロセスを丁寧に見取り、生徒の活動を多面的に評価している。

本校は前期、後期の2期制で、各学期A～Cの区分で、表1の通り年間計画を立てている。

情報モラル教育を最初の活動として位置づけている理由は、学校生活が始まる前にSNSのリスクを適切に判断し行動する力を育成するためである。その他の活動も、カリキュラム・マネジメントの観点から、学びの継続性を大切にしている。例えば、1A情報モラル教育で疑問に思ったことは、次の1B探究活動で調査する。1B探究活動で明らかになったことを1C発表活動で発表する。1Cにおいて気づいた改善及び情報の科学的理解の深化を2Aの発表において実践し、2B・2Cにおいて数字やグラフから情報を適切に読み取る力、科学的理解のさらなる深化へとつなげている。

表1 年間計画

<前期>	<後期>
1A 危険予測の視点を育てる情報モラル教育	2A 情報通信機器の仕組みを調べよう ～聴衆を巻き込むプレゼンをめざす～
トラブル事例の問題点を分析し、危険回避に向け意識すべき点を体験的に学習する。	情報機器や情報通信サービスの仕組み、バックグラウンドでやり取りされているデータについて探究し、情報の科学的な理解を深める。
1B 情報レポート作成	2B データ分析で学ぶメディアリテラシー
情報社会で話題になっていることに関して、自ら疑問を設定し、情報源の信ぴょう性を判断しながら考えをまとめる。その際、序論・本論・結論の構成で思考することを体験する。	情報モラルに関するアンケートを分析し、データから情報を読み取り、考察する。また、グラフを正しく読み取る力の育成を図る。
1C 情報レポート成果発表 ～脱！棒読みプレゼン！～	2C 表計算ソフトのマクロ機能を用いたプログラミング学習
1Bのレポートをパワーポイントにまとめ、1人3分で発表する。発表を通じて、自らの考えをわかりやすい言葉で相手に伝える力を伸ばす。	表計算ソフトにおけるマクロを活用し、プログラミングの基礎を学習する。データ処理の手続きをプログラミングすることで、作業効率が向上することを体験的に理解する。

4. 成果

平成 29 年度 第 1 学年 社会と情報アンケート
(有効回答数 308 人)

平成 29 年度末の授業アンケートにおいて、「一年の活動の中で一番楽しく深く学べた活動はどれか」という質問をした。特に肯定的な意見が多い活動は次のとおりである。

【2A】仕組みの探究・・・(76 人)

【2C】プログラミング体験・・・(65 人)

【1C】探究発表活動・・・(63 人)

その理由として、「調べた内容について理解を深められたこと」「他者と協力して目標に向け取り組むことが大切だと学んだこと」という意見が挙げられた。

上の活動には次の 3 つの共通点がある。

- ①自ら疑問を設定し探究する活動
- ②他者と協力して取り組む活動
- ③普段使っている情報機器、情報通信サービスの仕組みを深く探究する活動

生徒自身が学習を「自分事」として捉えられた活動において、生徒はより主体的に学ぶ。「自分事」にするためには、活動の最初に疑問の設定を行い、適宜他者とアイデアを共有し、自分で考えをまとめる授業展開が鍵であると考えられる。

5. 評価方法に関する意識調査

評価方法に関するアンケートを生徒に実施した。ループリック、ポートフォリオそれぞれに対する意識は以下の結果となった。

＜ループリックが役に立ったか＞

項目	回答数
とてもそう思う	90
そう思う	167
どちらでもない	41
あまりそう思わない	9
全くそう思わない	1

◇ 肯定的な意見

- ✓自分に足りないところなどを客観的に捉えることができる。
- ✓自分が達成したと思えるクオリティと、相手を感じた自分自身のパフォーマンスの評価のズレが明確にわかる。また、ゴールがはっきりしていて目標をもちやすい。

◇ 否定的な意見

- ✓自分もっているセンスやレベルの自己ラインが違うことにより、元々の基準がそれぞれで異なるので、あまり役に立っていないのではないかなと思う。

＜ポートフォリオが役に立ったか＞

項目	回答数
とてもそう思う	61
そう思う	182
どちらでもない	43
あまりそう思わない	17
全くそう思わない	5

◇ 肯定的な意見

- ✓毎回の授業で学んだことをその日のうちに書いて、後でそれを見直すことができた。

◇ 否定的な意見

- ✓常にどんな感想を書こうかと考えなければいけないのでプレッシャーだった。

評価方法に関する考察

ポートフォリオの活用により、調査内容に関する理解を深められるが、一部書くことが苦手な生徒がいるという側面も明らかになった。生徒、教員双方にとって評価が目的化しないように心がける必要がある。1つの解決策として、平成 30 年度の実践より、ポートフォリオを書く頻度と観点を適正化した。

これまで表計算ソフト内にポートフォリオを記述していたが、動作が安定しないことが課題であったため、Web ブラウザ上で安定し動作する Google Form を活用している。

目標が明確になる点がループリックの活用の利点として挙げられていた。一方で元々の基準をそろえることが重要であることも明らかになった。よって、教員が用意したサンプルを提示し、それを評価して基準を明確にすることが有効であると考えられる。

6. 成果・今後の展望

授業アンケートにおいて、肯定的な意見が多数見受けられることから、生徒一人ひとりが意義を見出し、取り組んでいることが教科としての成果である。

引き続き、年間指導計画、授業展開、評価方法を改善し、自ら課題を設定し、主体的に取り組む力と態度の育成をめざしたい。